

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム ポランの広場いなせ(ユニットA)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500105		
法人名	株式会社 文化タクシー		
事業所名	グループホーム ポランの広場いなせ(ユニットA)		
所在地	〒023-1132 岩手県奥州市江刺稲瀬字水先629		
自己評価作成日	令和6年8月31日	評価結果市町村受理日	令和6年11月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhvu

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2011年2月1日認知症対応型共同生活介護事業所と小規模多機能型居宅介護事業所を併設し江刺稲瀬地区に開設、本年で13年目、グループホームポランの広場いなせと申します。2023年10月より小規模多機能型居宅介護事業所を終了、現在はグループホームユニットAとして運用しております。ポランの広場には宮沢賢治の幻想豊かな童話に出てくる「皆が元気で自分らしく楽しめる広場」「明日への活力を養うことができる理想郷」という意味が込められています。宮沢家様より著作物の使用許可を得て命名いたしました。目標達成のために教育、研修、会議などを重ね利用者様に安心して生活できる場を提供したいと考えております。家族様には定期通院などで定期来所される際、日頃の状態などや施設からのお願いを居室担当職員より伝え協力をいただいております。介護理念の「共に向き合い、共に笑顔で、共に支え、共に生きる」を毎朝復唱、利用者様に寄り添い、利用者職員共に笑顔で毎日を過ごしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍以降家族等の面会時の感染症対策を継続しており、地域や外部との交流の機会が減少している。また、利用者の平均年齢が88歳を超え、高齢化が進んでいることも、外出や外部との交流の機会が減少している要因と捉えている。このような環境下にあっても、自家菜園で採れた紫蘇を使った手作りジュースや野菜類を食卓に提供したり、調理の下拵えや下膳などの活動参加の機会を大切にしている。日々職員の柔軟な発想でレクリエーションを工夫したり、ドライブの機会を増やし、甚句祭りなど地域のお祭りの見学にも出掛けている。9月には、職員関係者からの情報提供で岩谷堂高校生徒による鹿踊りの慰問の機会を設け、徐々に交流や活動の機会を広げている。事業所開設から13年を経過したこともあり建物の各所に修繕を要し、また、災害等の非常時備蓄品などの物品保管場所増設などの施設課題が生じており、これらに対して優先順位を決めて改善し、快適な環境づくりに取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年9月18日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

事業所名 : グループホーム ポランの広場いなせ(ユニットA)

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員に介護理念の案を提出してもらい、その中から全体会議にて介護理念を決定しました。現在は事業所内神棚の下に掲示し、朝のミーティング終了後に職員全員で介護理念「共に向き合い、共に笑顔で、共に支え、共に生きる」を唱和しています。	理念は開設時に職員が話し合っで決めたもので、毎日職員朝礼後に唱和し確認している。管理者は、理念に基づいたケアについて、引き続き具体的内容や支援方法等について職員全員で話し合いを持ち、共有化を図りながら日々の実践に反映させたいとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナが第5類に移行した後も依然として流行しているとの情報あり、地域との交流や面会の制限が一部続いている。事業所の夏祭りも内々での食事会となりました。令和5年6月には42歳年祝連による訪問演舞を開催しました。	自治会には加入していないが、市の広報紙等が配布され、随時事業所内に掲示している。運営推進委員の行政区長、民生委員を通して、事業所運営に対する地域住民の理解を得るように努めている。職員の提案で今年も岩谷堂高校生の鹿踊り慰問があり、地域へも呼び掛け住民と利用者が一緒に楽しむことができた。地域の清掃活動、祭り、運動会、作品展示会等への参加を通し、災害時の協力支援も含めた連携を図れるよう進めたいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍以前は認知症共同施設として地域の方に施設紹介とお知らせを回覧していた。令和6年9月には岩谷堂高校鹿踊り部慰問の回覧を区長様をお願いするなどコロナ禍以前のように回覧を行う考えである。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の影響もあり令和5年は稲瀬地区センターでの開催となりましたが、令和6年5月からはポランの広場いなせ施設内の和室にて開催する事となりました。利用者様の様子や施設の状況、問題点などを説明、理解して頂く。構成員の方々からは地域の情報やサービス向上のアドバイス等提案を受ける。	会議には、警察署、消防署、行政、民生委員、地域住民等幅広く参加しており、防犯の留意点や他の事業所の取り組みの情報や助言をもらっている。目標達成計画にあげた、利用者本人、家族代表も構成メンバーとして参加している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	奥州市長寿社会課には介護保険制度に沿った適正な運営を実行するため、Q&Aでは理解できない事例を問い合わせしている。コロナ禍の際には様々な助言をいただいたり、マスク等の備品など提供していただいている。	市の担当課職員が運営推進会議メンバーでもあり、新型コロナ対応等を含め随時助言、指導を得ている。災害情報は市からメールで提供があり速やかな対応ができています。生活保護担当ケースワーカーや介護保険の担当者と定期的に情報交換し協力関係ができています。介護保険制度や研修の案内等の情報は、日々メール等を確認し本社とも連携して対応している。	

事業所名 : グループホーム ポランの広場いなせ(ユニットA)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1回実施している。その他、研修やアンケート調査等を行い、その際の内容を記録し議事録を作成している。インターネットで調査、集めた資料等を職員に提示している。またyoutube等で関連する動画を視聴、業務に役立てている。	管理者及び職員2名が輪番で、委員会を3ヵ月毎に開催している。委員会では利用者への適切な声掛けの仕方、スピーチロックが課題となっており、職員個々に捉え方の違いや馴れあいがみられないよう、虐待防止とも併せ、半年ごとに動画や関連資料により研修を実施し、言葉掛けの具体事例を掲示して注意喚起に努めている。転倒防止のため、両ユニット合わせて7人の利用者がセンサーマットを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関連した内部研修を行っている。職員から利用者様への行き過ぎた声掛けに対して注意を払い、発見した際には理由を説明、必要に応じ資料等を活用して再発防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援に関して担当者会議等を行い、できる事できない事を利用者様の心情に寄り添いながら検討、支援していく。成年後見制度に関しては外部講師を招いての研修を行うなど検討していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約の際には契約書、重要事項説明書を提示、加えてパンフレット・料金表を使用して利用者様、家族様が十分に理解できる様に時間をかけて説明を行う。質問等に対しても丁寧にわかりやすい回答を努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からの意見は日常会話やレクリエーションでの聞き取りを生かし反映させている。家族からの意見等は面会時や電話対応、通院時の受け答えなどの機会にコミュニケーションを図りつつ対応している。玄関にはご意見ポストを設置し、家族様や外部者からの意見等を承っております。	聴き取りを工夫しながら、ほとんどの利用者が、問い掛けに対し意思表示ができる。玄関前設置の意見ポストの利用はない。ご家族からは利用料の支払いや通院の際などに意見、要望等について確認を行っている。遠方に在住の家族からは、外泊を希望され、帰宅外泊された方もいる。利用者からは、帰宅や家族との電話連絡の希望がある。ラインなどでのリモート面会も整備しているが、利用される方はいない。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ポランの広場いなせ(ユニットA)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	直接管理者への提案、連絡ノートの活用、全体会議や個人面談など様々な場や機会を設けています。検討した上で運営に反映しています。例としては、和室掃除に関して通常の掃除と分けたいとの要望が有り、和室専用の掃除機を購入しました。	年2回、管理者と職員との面談を設け、職員個々の状況を把握しながら、研修、資格取得などのスキルアップの希望、苦情、要望等の相談を行っている。社長とは年1回個別の面談の機会を設けている。毎年度、「資質向上のための計画」として、介護技術、感染症対策など9項目について全職員から意見を求め、事業所全体として取組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者からの報告により職員個々の努力や実績などを把握し、就業環境の整備に努めている。労働時間を把握し、不平等にならない様シフト配置に気を配り、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者からの報告により、ケアの実際と力量の把握に努めている。コロナ禍のため、外部研修や講師を招いての内部研修を避けていたが様子を見て実施検討する。インターネットを活用して動画等視聴行い、内部研修を行っている。市や県から研修についての情報を掲示している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前はいわて地域密着サービス協会の活動として研修や会議が開催されていたが、新型コロナウイルス感染症の蔓延防止等の理由により自粛している。研修等については様子を見て参加を検討する。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前には家族様と共に面談を行う。利用者本人との個人面談で生活歴や嗜好を傾聴し、安心して頂く様分かりやすい説明に努めている。知り得た情報については担当者会議で提示し、検討した内容をケアプランに反映している。後ほど職員一人ひとりに周知し情報共有を行う。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ポランの広場いなせ(ユニットA)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前には家族様と面談を実施している。現状において家族様が本人(利用者)の言動や行動等で困っている事、今後、将来的に望む事、伝えておきたい事等を聞き取り、今後のサービス提供に反映できるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前には利用者様、家族様が現在必要とされているサービス内容を見極め提案を行っている。利用者様の状態変化が見られた際には家族様へ連絡を行い、その都度対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当事業所の介護理念である「共に向き合い、共に笑顔で、共に支え、共に生きる」を念頭に置き、グループホームという共同生活の場においてお互いを尊重しながら信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	以前は居室内での面会を行っていたが、現在は玄関でのみの面会となっている。利用者様の通院時や家族様との外出の際には日常生活の話題や変化などを家族様とコミュニケーションをとりながら情報共有を行い、共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は感染対策を行った上で家族様や知人との繋がりが保てる様に面会、外出、外泊等を利用して頂いております。感染等の観点から玄関での面会となっておりますが安心して過ごして頂けるよう支援に努めております。	家族以外でも、知人が近所まで来たついでに立ち寄り、家族、本人の希望で外泊も行っている。お盆の時期など墓参りに外出される方もあり、家族や知人との関係が継続するよう支援している。ミニドライブでも近隣の馴染み、思い出の場所を巡る機会を大事にしている。月1回訪問する理容業者が新たな馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相互関係やADL状態変化、本人の嗜好等を検討した上で座席を決めている。年に数回、様子を見て席替えを行い他の利用者との交流が行える様支援に努めております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても電話やSNS、年賀状など活用し、今まで構築した関係を大切にしています。また今後の心配事等についても相談や支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常日頃の会話やレクリエーション等で本人の思いや希望、意向を聞き取り、把握に努めている。その情報はミーティングやケア会議、連絡ノート等を活用し職員間の情報共有、ケアプランに反映させている。	職員が日常の利用者との会話等から把握した希望や要望を、居室担当やレク担当職員が誕生会などの行事に活かしている。また、業務日誌、連絡ノートの他に些細なことでも「気づき」を記載できるノートを使い、一人一人の思いや意向の把握に努め、職員間で情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネジャーから新規利用者様の事前情報等提供を行っている。利用開始してから日常会話などで知り得た情報はミーティング等を行い、情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の経過観察情報は支援経過表に記入、現状把握し記録として保管している。朝夕のミーティングや職員会議、居室担当者会議等にて利用者様の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様に本人の状態、日常生活での出来事を伝えたり、それに対しての家族様の意向等を伺っている。利用者様の日常生活で知り得た情報や家族様の意向等をミーティングや担当者会議で報告、介護計画に反映させている。	新規の利用者は、ケアマネジャー、看護師、担当職員によりアセスメントし、暫定のプランで3か月を目途に状態の変化を把握しながら、必要に応じ随時見直している。モニタリングは、主にケアマネジャーが支援経過記録を確認し、居室担当者から聴き取りしている。家族の意向は、ケアマネジャーが確認し、居室担当、ケアマネジャー、勤務職員による担当者会議(カンファレンス)でプランの原案を作成し、全体会議で職員に周知している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の様子や行動等を支援経過表に記録し、ミーティング等で報告し情報共有を行っている。またモニタリングを重ね現状に即した介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族様からのニーズに対して柔軟なサービスができるよう枠に捕らわれず、職員からの意見やネット情報、市からの情報などを活用する。ミーティングなど会議を行い職員一同取り組んでいる。		

事業所名 : グループホーム ポランの広場いなせ(ユニットA)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などで上三照会館、稲瀬地区センター等地域共有施設用の利用や近くの産直販売を活用、ドライブスポットの把握、踊り等の芸能活動媒体や出張理美容の活用等を行い、利用者様に楽しんで頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に受診は家族様にお願いし対応して頂いている。家族様の都合が悪く対応できない場合には施設対応となり、通院の際には看護師または介護支援専門員が同行する。気になる状態変化等については主治医に報告相談し適切な医療を受けられるように支援している。	利用者全員が入居前からのかかりつけ医を受診している。通院は、家族が付添いしている。受診の際は、バイタル等の情報を家族に託し、受診結果は勤務職員が聴き取りして職員で共有している。かかりつけ医から確認がある際は、看護師が情報提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日常生活で気づき知り得た情報を職場内の看護師に報告、相談を行っている。個々の利用者様が適切に受診や看護を行えるよう看護師と連絡を密に取り、いつでも対応できる様に心掛け支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院の際には家族様、医療機関と連絡を密に取り、情報交換や相談に努めている。また入院中や退院する際の医療カンファには家族様と同席することで利用者様と家族様が少しでも安心して頂けるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に当事業所は看取りができないことについて説明を行い、家族様からはご理解をいただいている。重度化が予想されるまたは介護度の変更等の場合には特養や老健への申し込みを家族様にお願いしている。	現在、看取りは行ってない。重度化が見込まれる場合には、家族、かかりつけ医と話し合い、特養等への申し込みを支援している。重度化や急変時の対応等について、職員の知識、理解を深めるために専門職等による研修や職員への精神面でのフォロー等の仕組みづくりは、今後の課題としている。	利用者が重度化した時の対応について、利用者、家族に明示し理解が得られるよう事業所としての方針を書面で整備しておくことが望まれます。また、利用者の急変や万一の場面に对应できるように、専門職による研修等を通じた職員の実践力向上について取り組まれることを期待します。

事業所名 : グループホーム ポランの広場いなせ(ユニットA)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	誰もが見て確認できる場所としてスタッフコーナーの壁側に事故発生対応マニュアルを掲示し、速やかに対応出来る様にしている。定期的に応急手当や初期対応(心配蘇生法)習得についての講習を消防署に依頼し実施していたがコロナ渦の影響で行えていませんでした。様子を見て検討し講習を受ける予定とする。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域全体の水害を想定した避難訓練はコロナ渦の影響あり、最近では電話対応のみの訓練参加を行っている。火災を想定した避難訓練については原則6月と10月、年2回実施している。施設独自の水害を想定した避難訓練も実施している。	毎年2回火災、夜間想定での避難訓練を行っている。ハザードマップでは水害想定地域にあり、9月に水害を想定した避難訓練を実施し、江刺支所(旧江刺市役所)庁舎を避難場所としてしてワゴン車等の自動車での避難している。台風等の自然災害の猛威も危惧されることから、職員だけではなく、民生委員や地域住民の協力も必要と捉えており、運営推進会議で今後検討していきたいとしている。備蓄用品は、BCPIに沿って3日程度の飲食料、非常用発電機を確保している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けに関連する資料等の提供を行い、利用者様の誇りやプライバシーを損ねない声かけを心掛けている。親しみを込めた声掛けとなる事もあるが、信頼関係を築いた上でのコミュニケーションであり、人生の先輩として敬い尊敬する言葉かけを心掛けている。	排泄が自立している方は、戸を閉めて職員が待機し利用者自身が一人で出来ることを基本としている。排泄誘導時など、利用者への声掛けには、常に年長者への尊敬の念で呼称にも気を付けている。大作業など、これまでの人生での職業経験から得意な面を生かしたお手伝いなどに参加してもらうよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話やレクリエーションの中で利用者様本人の好きな事や嫌いな事等を聞き取っている。利用者様本人の思いや希望を伝えて頂けるよう、自己決定できるようコミュニケーションをとりつつ働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様個々の個性や生活リズムを尊重し、安心マイペースな生活で居られる様に柔軟な支援を行っている。		

事業所名 : グループホーム ポランの広場いなせ(ユニットA)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	担当者が利用者様個々に散髪希望をお伺いし、訪問理容を活用して散髪を行っている。ご自身で自由に着替えを行える様衣類等をタンスに保管している。管理等が行えない利用者様に関しては担当者が管理し、職員がお手伝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事に関してはほぼ職員が準備、提供をしている。食事前のテーブル拭きやアルコール消毒剤による手指消毒、下膳などで利用者様ができることは職員と一緒にやっている。手作りカレーなどの特別食やおやつを提供する際には準備から調理まで職員と一緒にやることもある。	食事ごとのテーブル拭き、アルコール消毒、下膳などは、両ユニットで各3名の方が行っている。副菜は外部の事業者をお願いしているが、手作りカレーの際には野菜の皮むき、切り方を利用者が張り切って行っている。毎年畑で採れた紫蘇を使ったジュースづくりも行い、皆で頂いている。普段はホットケーキなどの手作りおやつを提供し、誕生会、クリスマスでのケーキなどは、レク担当者が趣向を凝らして提供している。敬老会の外部の仕出し弁当も好評である。利用者が楽しみにしていた外食は、コロナ禍により中止していたが再開を計画している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の副菜に関しては外部業者に委託、栄養バランス等を管理していただいている。主食の量や副菜の形状等については会議等で決定し、利用者様の体重や状態変化に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員の見守りの中で各自口腔ケアを行っている。介助が必要な利用者様に関しては一部介助、全介助を行っている。口腔ケア中に異常を発見した際には家族様へ報告、必要に応じ受診の検討をお願いしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を利用するにあたり記号(○⇒排尿、●⇒尿失禁、△⇒自立排便、▲⇒便失禁)を決めて記入している。その他に量や形状が目で判断できるよう情報追記している。排泄のパターンを把握し、必要に応じトイレ誘導等の声掛けを行っている。会議等で利用者様の状態を確認し、紙パンツから布パンツへの変更など自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表により一人一人の排泄時間帯などのパターンを把握している。現在、リハビリパンツ使用は、Aユニット5人、Bユニット2人、パッド使用が、Aユニット3人、Bユニット5人、オムツ使用が2人である。職員のきめ細かな観察による適切な誘導、ケアにより、Bユニットで3名の方がリハビリパンツから布パンツとパッド使用に改善し自立している。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ポランの広場いなせ(ユニットA)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を利用して個々の排尿、排便状況の把握に努めている。便秘の原因や影響を理解し、飲食物の提供等を工夫している。食事前の体操やおやつ後のレクリエーションなど運動への働きかけを行い、また必要に応じて個々の状態に合わせた対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日や入浴する利用者様については事業所側で決定している。入浴前には必ず本人に意思確認を行い誘導している。もし利用者様が不穏な状態であったり、または外出、受診等で入浴できない場合には入浴日や入浴時間を変更するなど柔軟な対応を行っている。	月、火、木、金曜日の午前を入浴日として週2回提供している。異性による入浴介助を嫌がる方はいない。主にユニットAの大浴場を使用し、ゆったりとした入浴を楽しんでいる。季節に応じて菖蒲湯、柚子湯を提供し、職員との会話を楽しんでいる。入浴を嫌がる方もいるが、声掛けを工夫したり、時間をずらすなど柔軟に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の意思を尊重し、個々の判断にて居室に戻り休息をとって頂いている。自席にて傾眠されている利用者様に対しては声掛けを行い、居室誘導する事もある。夜間安心して眠って頂けるよう例えばドアが静かに閉まる工夫をするなどの設備改良やエアコンによる空調調整、起きている利用者様に対し周りへの配慮して頂く様声掛けするなど支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様別の処方箋一覧を作成し、用途や副作用について職員が確認出来る様に看護師が中心に管理を行っている。配薬準備や服薬の際には職員同士がダブルチェックを行う事で誤薬の防止に努めている。また症状の変化がないか確認しその都度情報共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	例えば写経や塗り絵など個々の趣味や手指活動が無理なく行える様に支援を行っている。担当が中心となり個人の趣向や役割、楽しみなどを聞き取り確認し、検討した上で支援に繋げている。気分転換に施設周辺の散歩や畑での作業、ドライブレクリエーション等を行っている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ポランの広場いなせ(ユニットA)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人からの希望があれば家族様に連絡、相談を行い家族の協力のもと外出や外泊を行っている。気分転換も兼ねて施設周辺の散歩を職員同行で行ったり、花見やお祭りなど戸外の催しについても可能な限り参加を検討、楽しんで頂いている。	天気の良い日には、少人数で事業所周辺の畑などの散策に出掛けている。甚句祭りなどの地域の祭り見学にも出掛けている。季節に応じて花見、紅葉狩り、ドライブレクを楽しんでいるほか、病院受診の際には家族との外出を楽しんで来る利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在施設内における利用者様のお金については預り金として施設が預かり管理しており、必要に応じ買い物をするなど対応しています。お金の価値観を忘れない様に模擬的なお金を利用したレクリエーション等を行っております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	知人などからの電話対応等については随時対応しており、必要ならば家族様を通して施設に連絡を頂いている。本人様から家族様等に対して電話の訴えがあった場合には家族様と相談し、時間帯を考慮して会話が出来る様に支援を行っている。手紙などの要求があった際には担当が中心に準備等対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の温度や湿度についてはエアコンによる空調管理を行い、利用者様に直接日光が当たらない様にカーテンやレースを使用する事で調整、天窗での光調整等を行っています。匂いなど気になる様子ならば換気を行ったり、必要ならば消臭スプレーを利用する等柔軟に対応しています。月のレクリエーション担当が中心となり、季節感を感じるような貼り絵や行事写真を掲示したり、季節に関連したレクリエーション等を行っています。	両ユニットの食堂、ホールを中心に左右に各ユニットの居住スペースに別れている。ホール、食堂は天井が高く、明るい空間となっている。スタッフスペースが対面しており、各自の定位置の椅子のほか自由に座れる長椅子も配置している。壁面には利用者作品や季節ごとの装飾物、慰問に来てくれた岩谷堂高校鹿踊りなど行事の写真も展示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席の他にソファーや空いた席を用意し自由に利用して頂いている。一人で利用したり複数で利用したりと思思いに過ごしていただける。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ポランの広場いなせ(ユニットA)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ご せるような工夫をしている	基本的に居室は一人部屋を提供している。本 人、家族様と担当で相談を行い、今までの生活 において使い慣れた物や思い出の品や写真等を 居室内に置いたり掲示しています。本人が安心 して過ごせる様に工夫、支援している。	各居室にはベッド、タンス、エアコン、換気扇、パ ネルヒーターを設置している。椅子、テーブルを 持ち込んでいる方もいる。家族の写真、塗り絵、 習字などレクリエーションで制作した作品などを 掲示し、本人が安心できるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	居室前には自分の居室が認識できるよう利用者 名を掲示しています。居室からトイレまで動線に は安全な移動の為にトイレと判るような矢印等を 掲示しています。トイレ内では手すりを設置し、手 すりを使用して頂くように声掛けを行うなど安全 な環境作りに努めている。		